

1 地形・地質

県防災安全局防災部防災危機管理課

県下の地形は、最低標高－2m(木曾川下流)から最高 1,415m(茶臼山)までの比高 1,417m の高低差をもち、この間に、山地、丘陵、平野、島しょがあり、複雑な地形をなしている。

一般に東部及び北東部の三河地域には山地が、西部及び西南部の尾張地域には平野部が多く、南部には知多、渥美の 2 半島が突出し、その間に三河湾を、三重県との間に伊勢湾を抱いている。

平野と呼ばれる地形も、沖積台地があり、その成因も分かれ、地質、土壌、地下水の分布状況等は著しく異なっている。

地質構造は地形との関連が大きく、山地部隆起準平原の三河高原は深成岩(花崗岩)で、中央高地の木曾山脈の延長であり、東三河の八名山地、弓張山脈は、古生層及びその変成岩類でつくられ、赤石山脈の延長であって、これがさらに延びて渥美半島となり、志摩半島に続く一連の地質構造をなしている。尾張丘陵北端の犬山市背後の山地にも古生層が現れているが、これは、飛騨山脈からの延長とみられる。

このような古く固い地質からなる山地の前面に第三紀層の丘陵地が展開し、西三河平野の山麓地帯尾張丘陵及び知多丘陵を発達させている。さらに、その前面に洪積台地からなる平野が分布する。その例は尾張丘陵西側の小牧台地、熱田台地、西三河平野の碧海台地、東三河の本野ヶ原、高師原、天伯原、渥美半島がそれである。

沖積平野はその前面にあり、いわゆる濃尾沖積平野、西三河の幡豆平野、東三河の豊川下流平野がそれで、いずれもデルタ平野を形成している。

2 河 川

県建設局河川課

(1) 木曽川

木曽川は東海地方最大の河川であるばかりでなく、我が国第5位の大河川である。

水 源 地 長野県木曽郡木祖村の鉢盛山(海拔 2,446m)

流 域 面 積 9,100 km²(県内流域 68 km²)

流 路 延 長 229 km(県内流路 51 km)

計画高水流量 13,500 m³/sec(犬山)

(2) 日光川

日光川は濃尾平野に水源をもつ典型的な低平地河川である。河口に高潮を防御するため、水門が建設されている。

水 源 地 愛知県江南市

流 域 面 積 296 km²

流 路 延 長 41 km

計画高水流量 1,200 m³/sec(河口) 550 m³/sec(本川)

(3) 庄内川

庄内川は名古屋市内に流下する最大の河川である。

水源地 岐阜県恵那市夕立山(海拔 727m)

流域面積 1,010 km²(県内流域 603 km²)

流路延長 96 km(県内流路 53 km)

計画高水流量 4,400 m³/sec(枇杷島)

(4) 矢作川

矢作川は三河地方最大の河川である。

水源地 長野県下伊那郡平谷村の大川入山(海拔 1,908m)

流域面積 1,830 km²(県内流域 1,426 km²)

流路延長 118 km(県内流路 101 km)

計画高水流量 6,400 m³/sec(岩津) 矢作古川 200 m³/sec(分派地点)

(5) 境 川

境川は尾張、三河の境をなす河川である。

水源地 みよし市

流域面積 224 km²(うち逢妻川流域 96 km²)

流路延長 40 km

計画高水流量 2,500 m³/sec(河口)

(6) 豊 川

豊川は東三河随一の河川である。

水源地 北設楽郡設楽町段戸山(海拔 1,152m)

流域面積 724 km²

流路延長 77 km

計画高水流量 4,100 m³/sec(石田)

3 海 岸

県建設局河川課、県都市・交通局港湾課、県農林基盤局農地部農地整備課

2025 年 4 月 1 日現在

県内の海岸保全区域の総延長は約 404km に達しており、これを三河湾・伊勢湾及び遠州灘の各沿岸別に区別すると次のとおりである。

県内の海岸保全区域総延長 406.006km

〈内 訳〉

三河湾・伊勢湾沿岸 359.539km

遠州灘沿岸 46.467km

また、県内の海岸堤防は、昭和 28 年の 13 号台風及び昭和 34 年の伊勢湾台風を契機に、海岸堤防が築堤されている。

4 気 候

名古屋地方気象台

愛知県は、太平洋岸気候区に入り、暖候期は高温・多雨、寒候期は小雨・乾燥する特徴がある。渥美半島と知多半島の南部では、熊野灘・遠州灘を流れる黒潮の影響を受け、四季を通じて温和な気候だが、三河の山間部では、やや内陸性を帯び、冬は厳しい冷え込みとなる。

県の南側は、太平洋に面しているため、低気圧などの通過時には、南海上から暖かく湿った気流が入りやすく、梅雨期や台風が接近・通過する時には、南斜面を中心に大雨になることがある。

尾張地方は、日本海まで比較的距離も短く、冬期は関ヶ原などの山あいを通る季節風による降雪がしばしばみられ、積雪となることもある。

また、県の北から北東にかけては、日本の屋根といわれる中部山岳が連なっているため北東の風が吹きにくく、冬は日本海からの北西風が卓越し、夏は太平洋からの南東風が卓越する特徴がある。

5 地盤沈下

県環境局環境政策部水大気環境課

地盤沈下は、地表面が徐々に低下していく現象であるが、一般的にはある程度広い地域の沈下のことをいい、その進行が人体に感知できないほど緩やかで、しかも元に戻らない非可逆的な現象である。

地盤沈下の主な原因は、沖積粘土層等の地盤の軟弱な地域における地下水の過剰な汲み上げであり、地下水の過剰揚水→地下水位の低下→地層の圧密収縮→地盤沈下という理論が定説となっている。

本県においても、産業の発展による水需要の増大に伴って地下水使用量が増加し、地盤沈下が社会問題化してきたが、1974 年以降は揚水規制等諸施策の実施により地下水揚水量が減少し、地下水位の回復とともに近年地盤沈下はおおむね沈静化の傾向を示している。

(1) 尾張・名古屋市地域

2024 年の水準測量結果では、年間 1cm 以上の沈下はなかった。(表－1)

主要な水準点の沈下状況は、1975 年頃から鈍化し、最近ではおおむね沈静化の傾向にある。累積最大沈下量は弥富市に設置された水準点で、1963 年から 2024 年までの 61 年間で 150cm となっている。(図－1)

図－2 は、1961 年から 2024 年までの累積沈下量の分布、及び海面以下の地域を示したもので、海拔ゼロメートル (T.P. ±0m) 以下の地域は、県内で 207 ㎢と広範囲にわたっている。

1994 年の異常渇水時には、図－3 のとおり広範囲にわたる地盤沈下が生じたように、地盤沈下は気象、地下水利用等に影響されやすいため、今後も監視を続けて状況の把握に努めるとともに、揚水規制等の施策を継続する必要がある。

(2) 西三河地域

2 年に一度水準測量を行っており、2023 年の調査結果では、1 年当たりで 1cm 以上の沈下はなかった。(表－2)

主要な水準点の沈下状況は図－4 のとおりであり、矢作古川流域においては緩やかではあるが経年的に地盤沈下の傾向がみられていたが、最近ではおおむね沈静化の傾向を示している。

累積最大沈下量は西尾市に設置された水準点で、1975 年から 2023 年までの 48 年間で 46cm となっている。

図－5 は、1975 年から 2023 年までの累積沈下量等の分布等を示したものである。

(3) 東三河地域

4 年に一度水準測量を行っており、2022 年までの調査結果では、経年的な地盤沈下の傾向はみられない。

(4) 知多地域

4 年に一度水準測量を行っており、2024 年までの調査結果では、経年的な地盤沈下の傾向はみられない。

(5) 県内の揚水規制区域 (図－6、7)

表－１ 年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移(尾張・名古屋市地域)
(1972 年～2024 年)

単位：km²

観測年 最大沈下量	1972 年	1973 年	1974 年	1975 年	1976 年	1977 年	1978 年	1979 年	1980 年	1981 年	1982 年	1983 年	1984 年	1985 年	1986 年	1987 年	1988 年
1 cm 以上	※	※	※	※	※	※	※	約 118	約 60	約 61	約 63	約 143	約 98	約 0	0	約 48	0
2 cm 以上	約 500	約 454	約 426	約 176	約 111	約 100	約 96	約 63	約 0	約 0	約 0	約 5	約 0			0	
4 cm 以上	約 330	約 310	約 280	約 107	約 51	約 38	約 0	0				0					
6 cm 以上	約 251	約 223	約 145	約 59	約 4	約 0											
8 cm 以上	約 157	約 164	約 90	約 15	約 0												
10cm 以上	約 83	約 103	約 45	0													
12cm 以上	約 34	約 59	約 19														
14cm 以上	0	約 29	約 6														
16cm 以上		約 15	約 1														
18cm 以上		約 5	0														
最大 cm	13.9	20.6	17.3	9.90	8.40	7.30	4.60	3.50	2.20	3.20	2.40	2.60	2.30	1.50	0.95	1.83	0.61

観測年 最大沈下量	1989 年	1990 年	1991 年	1992 年	1993 年	1994 年	1995 年	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年	2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年
1 cm 以上	約 25	約 0	約 0	約 32	0	約 351	約 3	約 0	約 0	約 4	約 0	0	約 3	約 0	約 0	約 6	約 41
2 cm 以上	約 0			0		約 49	0			0			0			約 0	約 0
4 cm 以上						0											
最大 cm	2.23	1.98	1.41	1.58	0.98	2.84	1.31	1.31	1.31	1.66	1.73	0.80	1.64	1.50	1.20	2.06	2.08

観測年 最大沈下量	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
1 cm 以上	約 0	0	0	0	0	0	0	0	約 0	約 0	0	約 0	0	約 3	約 0	約 0	0
2 cm 以上														0			
最大 cm	1.27	0.77	0.89	0.94	0.70	0.90	0.99	0.91	1.00	1.36	0.69	1.05	0.94	1.25	1.11	1.06	0.71

観測年 最大沈下量	2023 年	2024 年															
1 cm 以上	0	0															
2 cm 以上																	
最大 cm	0.83	0.76															

注 1) ※は「1 cm以上」の区分がなかったことを示している。

注 2) 沈下域の面積で「約0」とは、沈下した水準点は存在するものの、沈下域の形成には至らなかったことを示している。また、「0」とは、沈下した水準点も存在しないことを示している。

注 3) 「沈下域」とは、隣接する3点以上の水準点の年間沈下量が1 cm以上である地域である。

表－２ 年間地盤沈下域の面積と年間最大沈下量の推移（西三河地域）
（1975 年～2023 年）

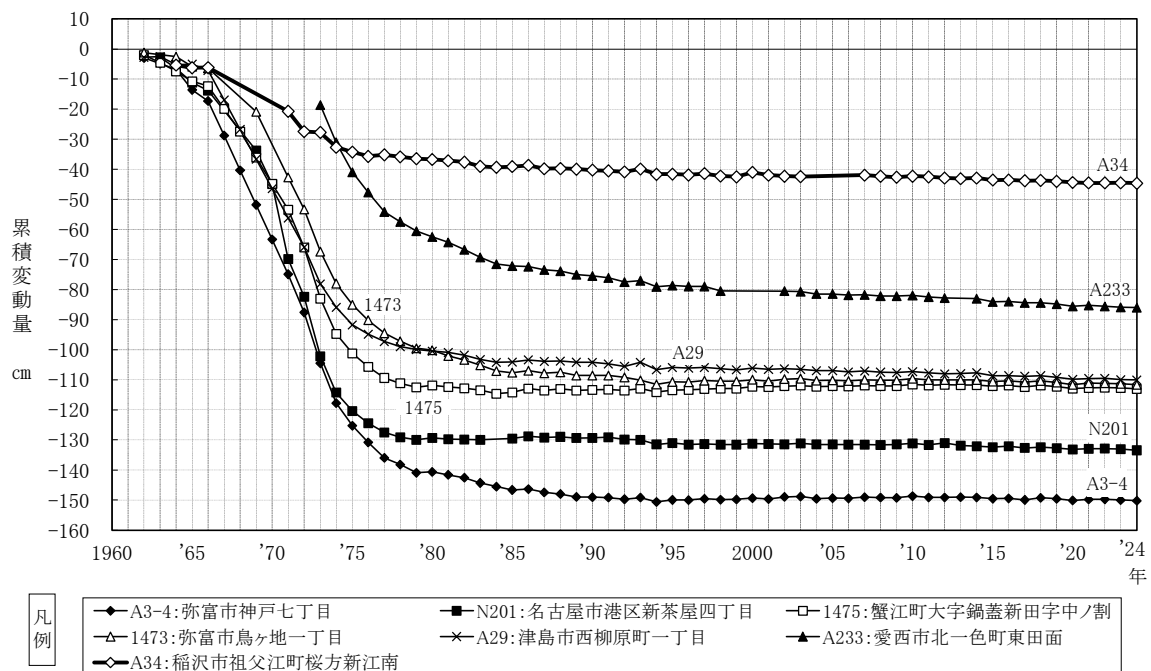
単位：km²

観測年 最大沈下量	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
1 cm 以上	年 0	年 約 3	年 約 4	年 —	年 約 8	年 約 20	年 約 64	年 約 9	年 約 16	年 約 16	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 4	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0	年 約 0
2 cm 以上			年 約 0	年 —		年 約 0	年 約 10	年 約 0	年 約 0	年 約 0						年 約 0								
3 cm 以上						年 約 0	年 約 0																	
4 cm 以上																								
最大 cm	0.7	1.6	2.3	—	1.2	3.1	3.5	2.7	2.7	2.4	1.1	1.5	1.7	1.35	1.69	2.20	1.11	0.67	1.41	0.92	1.01	1.27	0.93	0.75

観測年 最大沈下量	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
1 cm 以上	年 0	年 0	年 0	年 0	年 0	年 0	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0	年 —	年 0
2 cm 以上								年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —	
3 cm 以上								年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —	
4 cm 以上								年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —		年 —	
最大 cm	0.36	0.55	0.64	0.52	0.95	0.39	0.91	—	0.83	—	0.37	—	0.26	—	0.22	—	0.36	—	0.62	—	0.64	—	0.44	—	0.34

注 1) 沈下域の面積で「約0」とは、沈下した水準点は存在するものの、沈下域の形成には至らなかったことを示している。また、「0」とは、沈下した水準点も存在しないことを示している。

注 2) 1978年、2006年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年、2020年、2022年は測量を実施していない。1979年、2007年、2009年、2011年、2013年、2015年、2017年、2019年、2021年、2023年の最大cmは、1年間に換算した変動量を示す。



注) A233 は 1999 年、A34 は 2004 年に移設（移設後 3 年間はデータに含めない）

図－１ 主要な水準点の累積変動状況（尾張・名古屋市地域） 1961 年～2024 年

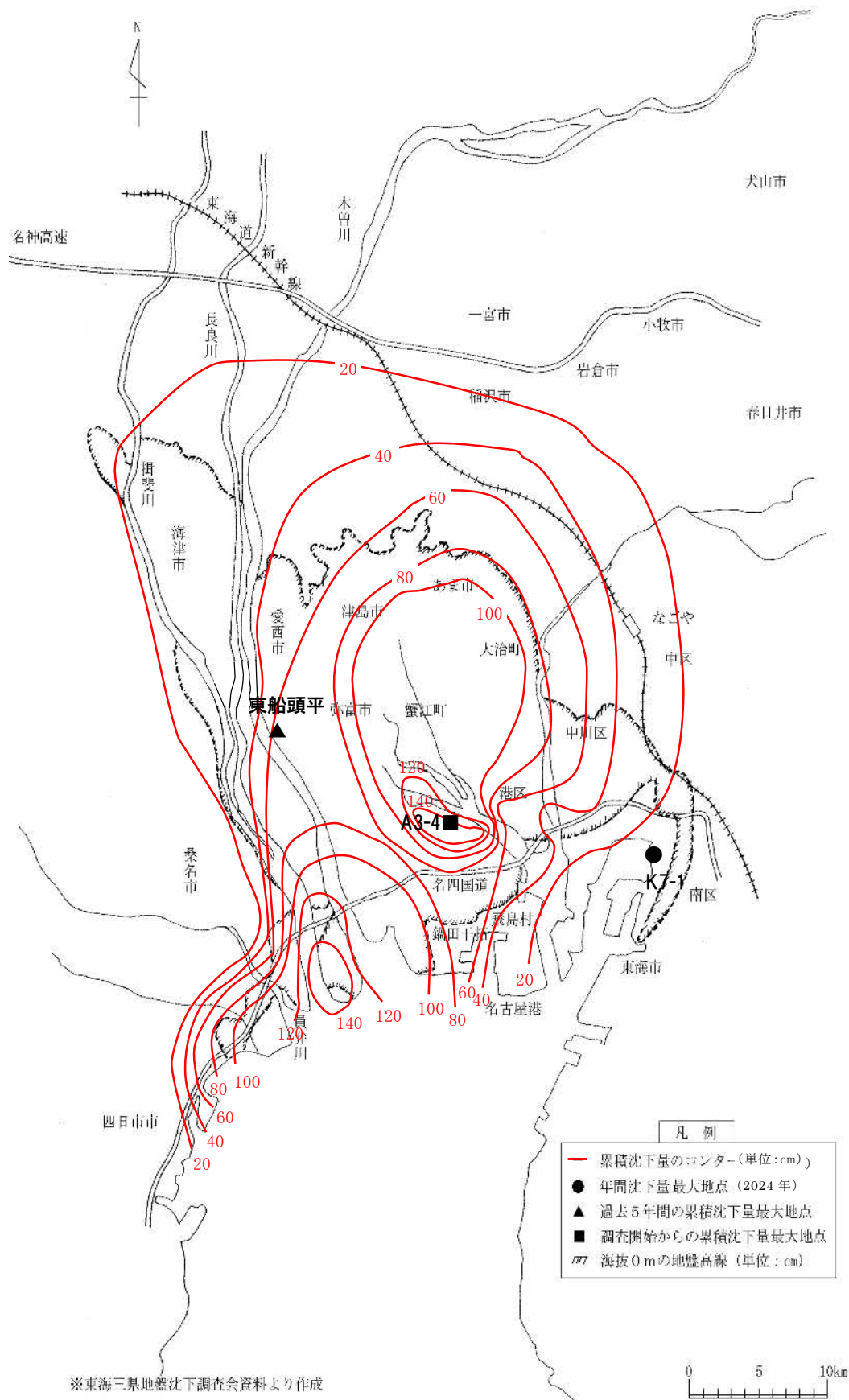
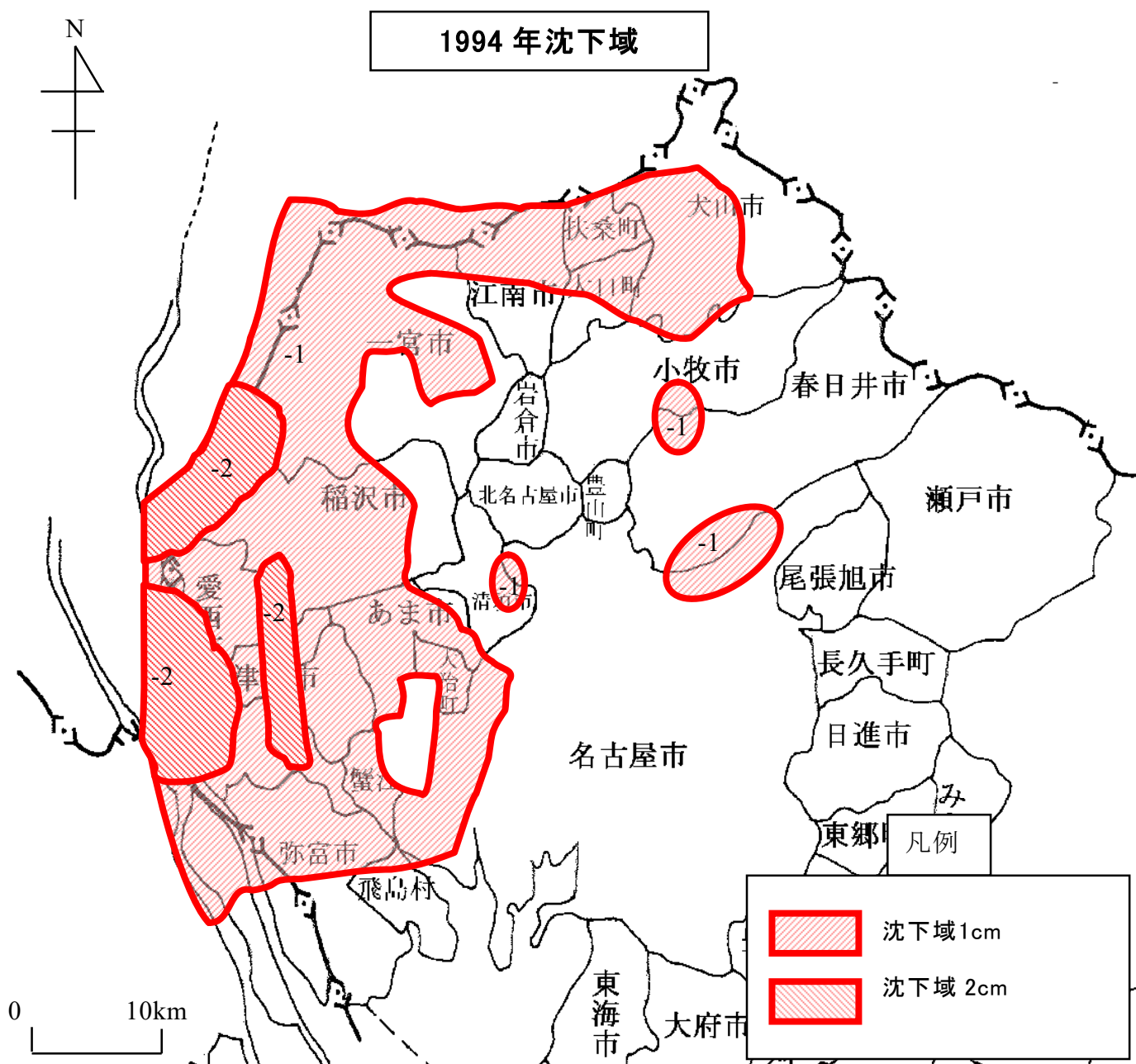
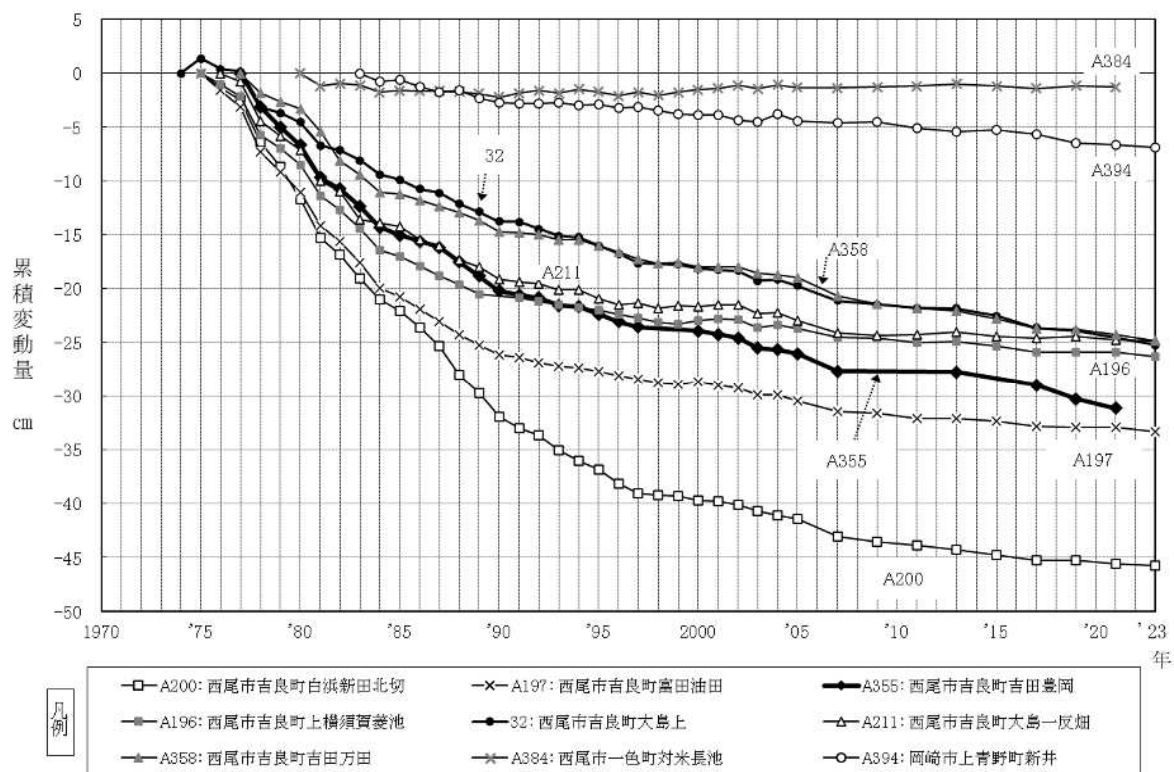


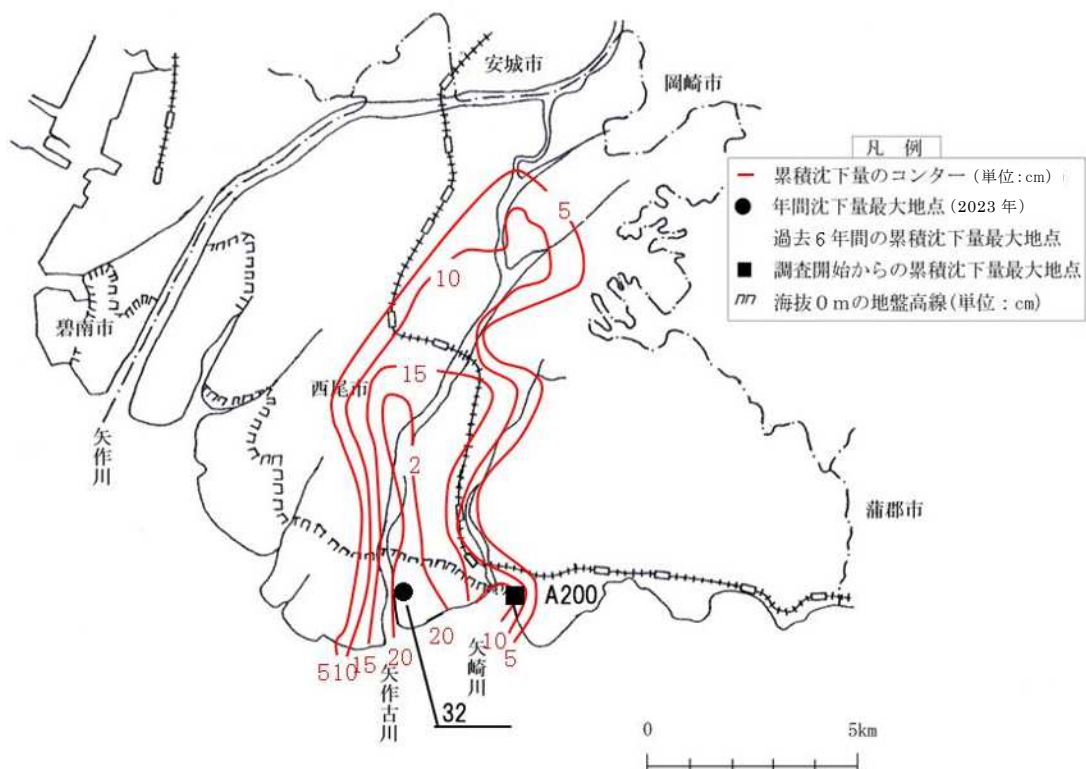
図-2 累積沈下量のコンター図(尾張・名古屋市地域) 1961年～2024年



図－3 1994 年に発生した沈下域



図—4 主要な水準点の累積変動状況(西三河地域) 1975年～2023年



図—5 累積沈下量のコンター図(西三河地域) 1975年～2023年



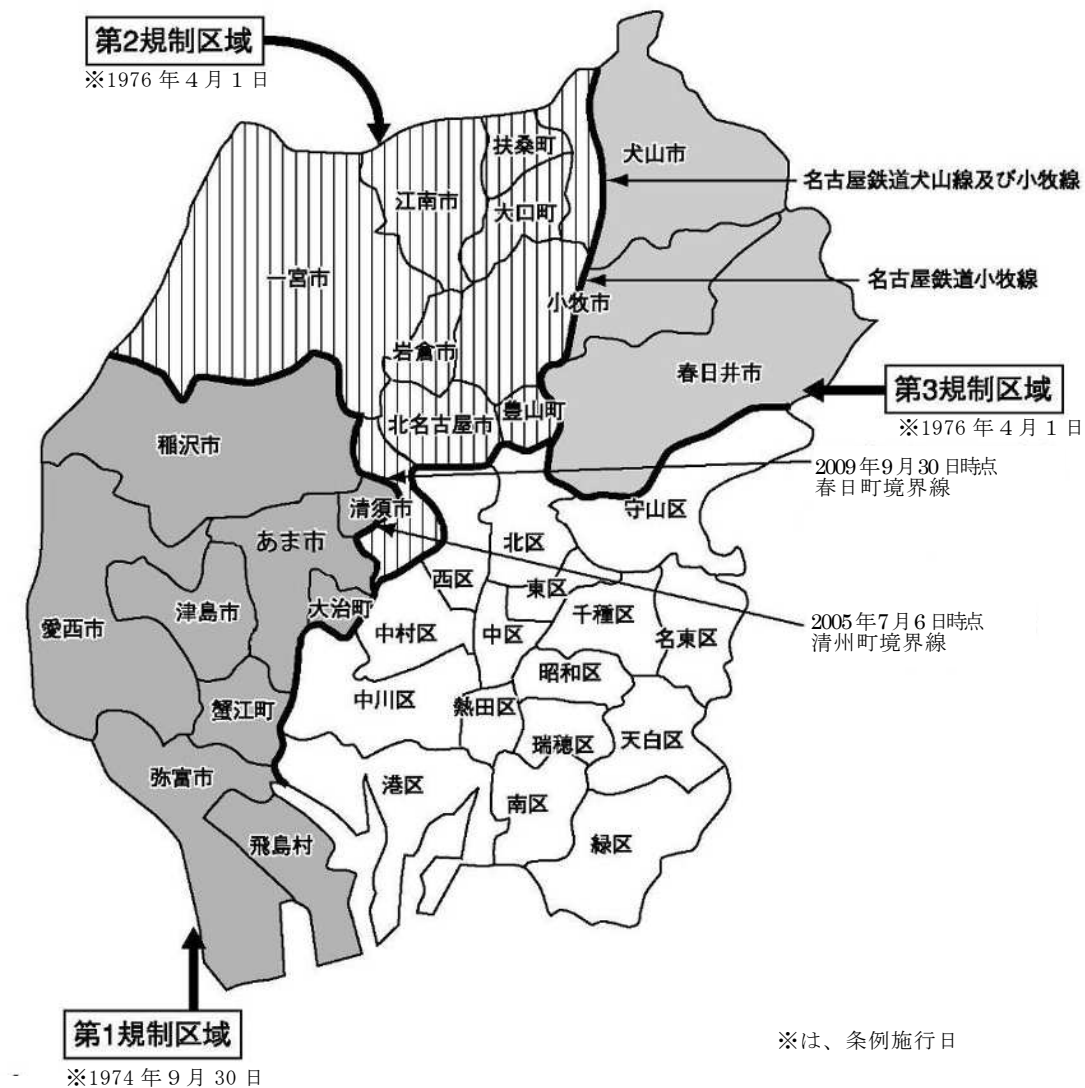
図－6 工業用水法の指定地域（名古屋市の一部及び尾張西部 11 市町村）

指 定 地 域			揚水機の吐出口の断面積 (cm^2)	ストレーナーの位置 (地表面下 m)
名古屋 市	イ	南区・港区 (堀川以西と潮見町除く)	4 6 以下	8 0 以深
			4 6 を超えるもの	3 0 0 以深
	ロ	イに掲げる地域以外の地域	4 6 以下	9 0 以深
			4 6 を超えるもの	1 8 0 以深
一宮市を始め尾張西部 1 1 市町村			1 9 以下	10 以浅又は 2, 000 以深

※1 ストレーナーとは、井戸の側管(ケーシング管)に設けた地下水の吸入口をいい、ストレーナーの位置は、地表面からストレーナーまでの深さをいう。

※2 2015年4月以降、名古屋市内の井戸は名古屋市が所管となる。

※3 名古屋市の指定地域は、図－6のとおり南区及び港区の一部である。








図ー7 県民の生活環境の保全等に関する条例の揚水規制区域
(尾張部 19 市町村)

許可の基準

1. ストレーナーの位置	地表面下 10m 以浅であること
2. 揚水機の吐出口の断面積	19cm ² (直径 4.91cm) 以下であること
3. 揚水機の原動機の定格出力	2.2kW 以下であること
4. 1 日当たり総揚水量 (事業所総量)	350m ³ 以下であること

6 活断層

県防災安全局防災部防災危機管理課
(愛知県活断層アトラス 平成9年9月)

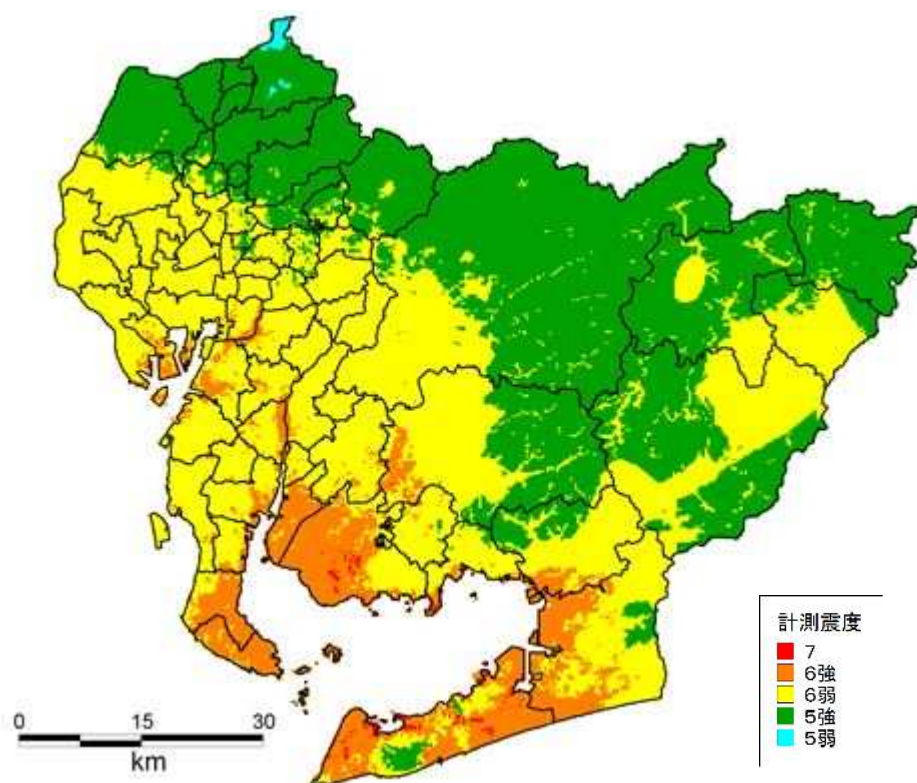
- 活断層  最近2百万年以降動いたと考えられる断層で、活断層であることが
確実なもの(確実度Ⅰ)。
(短線は縦ずれの低下側を示す。矢印は活断層の相対的な水平方向
の変位の向きを示す。)
- 活断層  最近2百万年以降動いたと考えられる断層で、活断層であると推定
されるもの(確実度Ⅱ)。
- 活断層  活断層の疑いのある線状の地形(リニアメント)(確実度Ⅲ)。
(リニアメント)
- 伏在断層  最近2百万年以降動いたと考えられる断層であるが、完新世の地層
に覆われ、分布位置が明確に特定できないもの。
- 地震断層  地震発生の際に変位したことが確実な活断層。この図では明治時代
以降に観察されたものを図示。

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地方図を複製したものである。(承認番号平9部復311号)

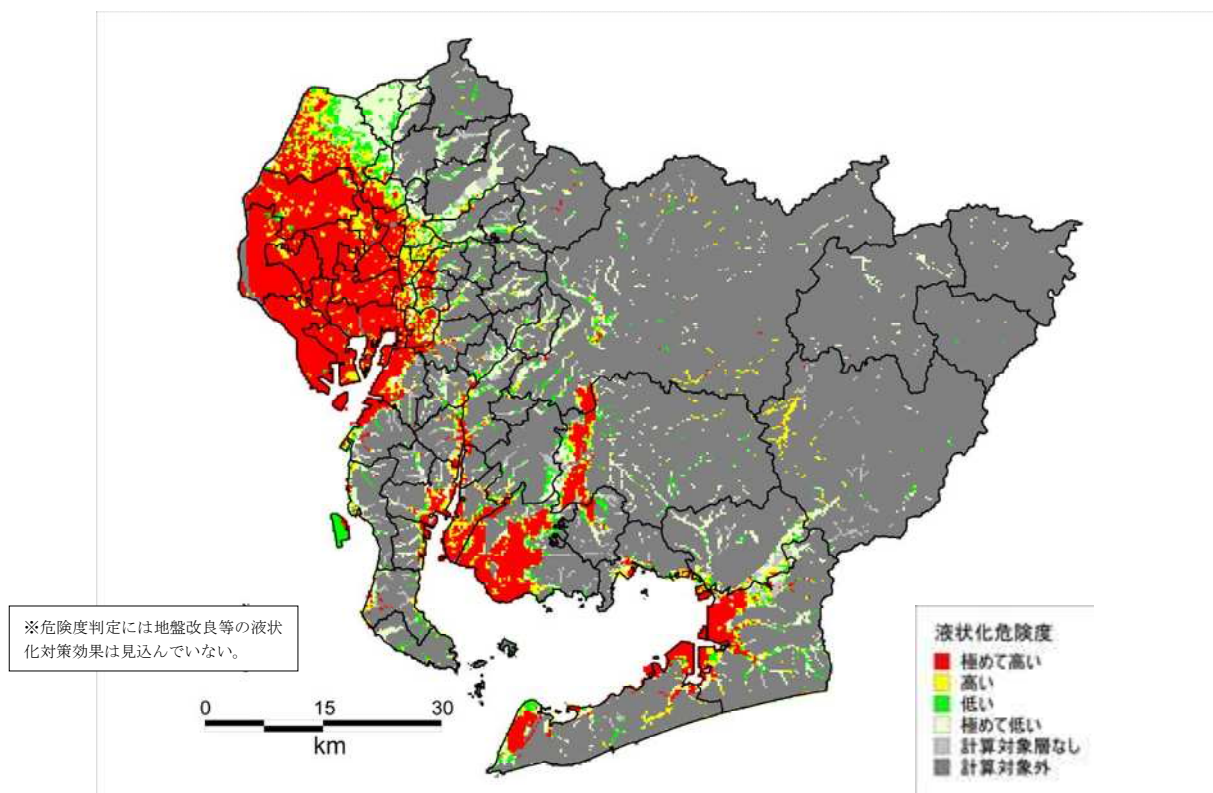


活断層分布図

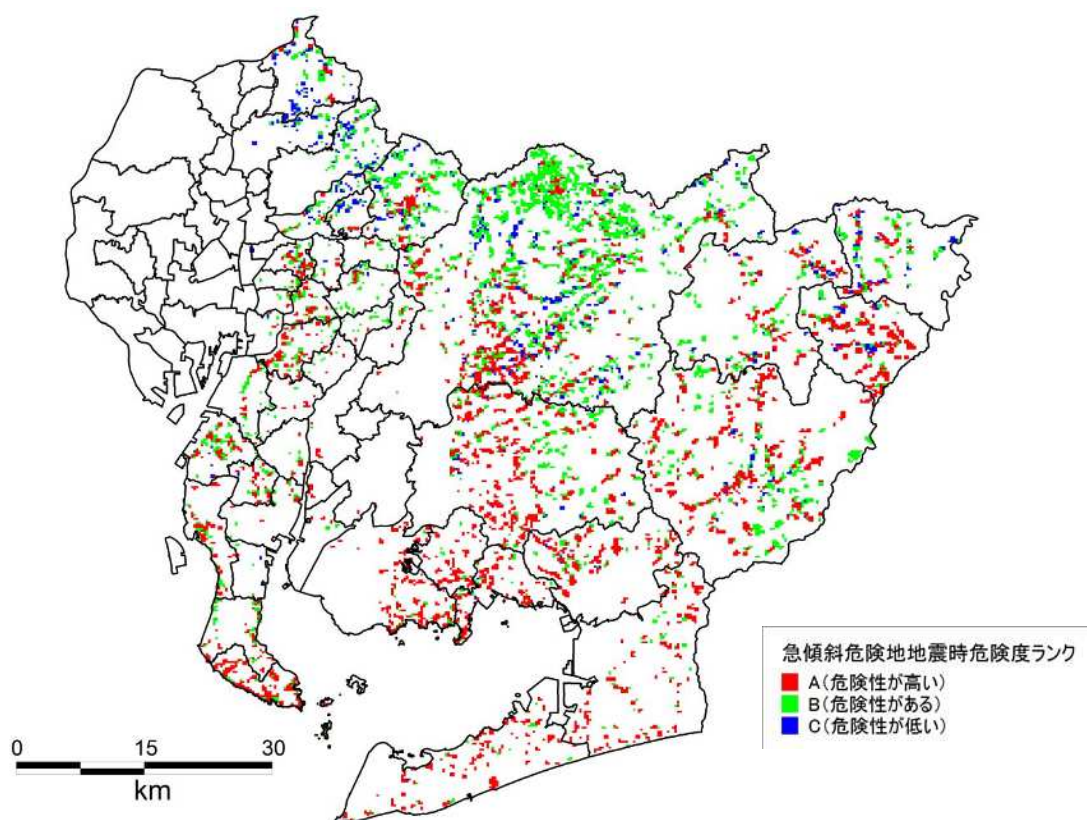
7 平成23年度～平成25年度
愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果



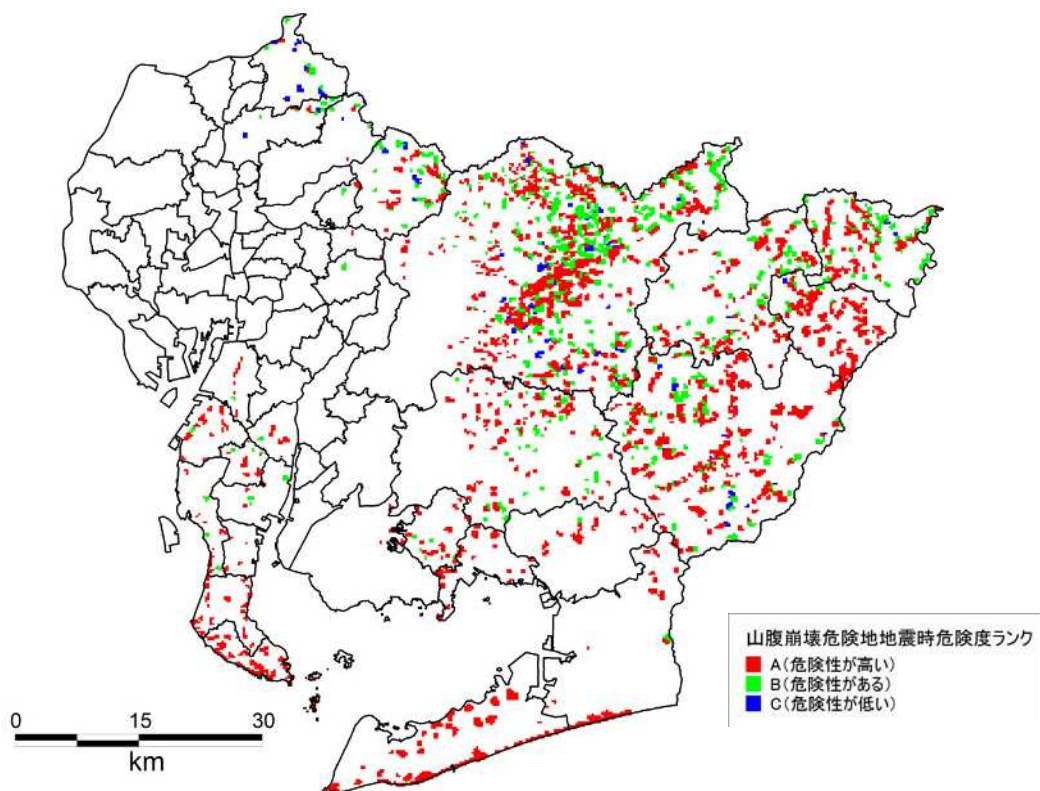
震度分布（過去地震最大モデル）



液状化危険度分布（過去地震最大モデル）

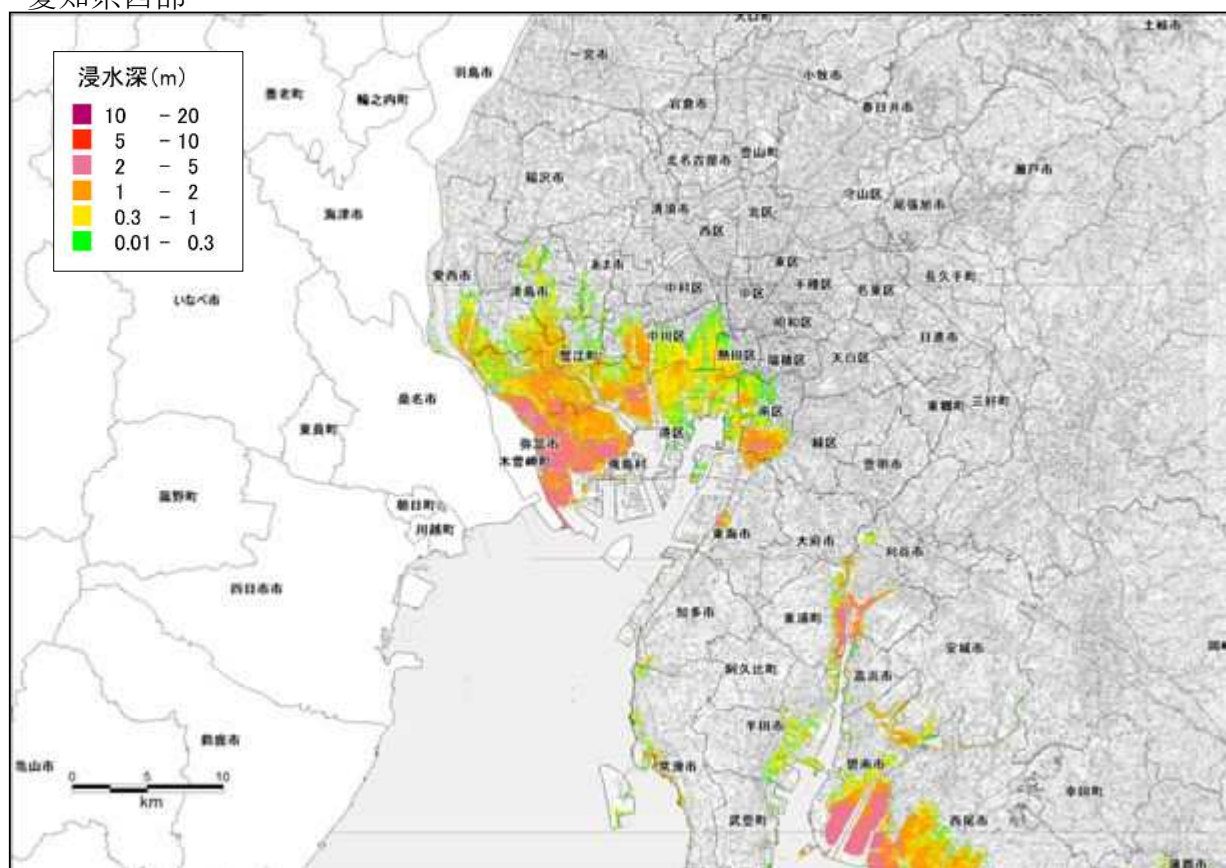


急傾斜地崩壊危険箇所の危険度（過去地震最大モデル）

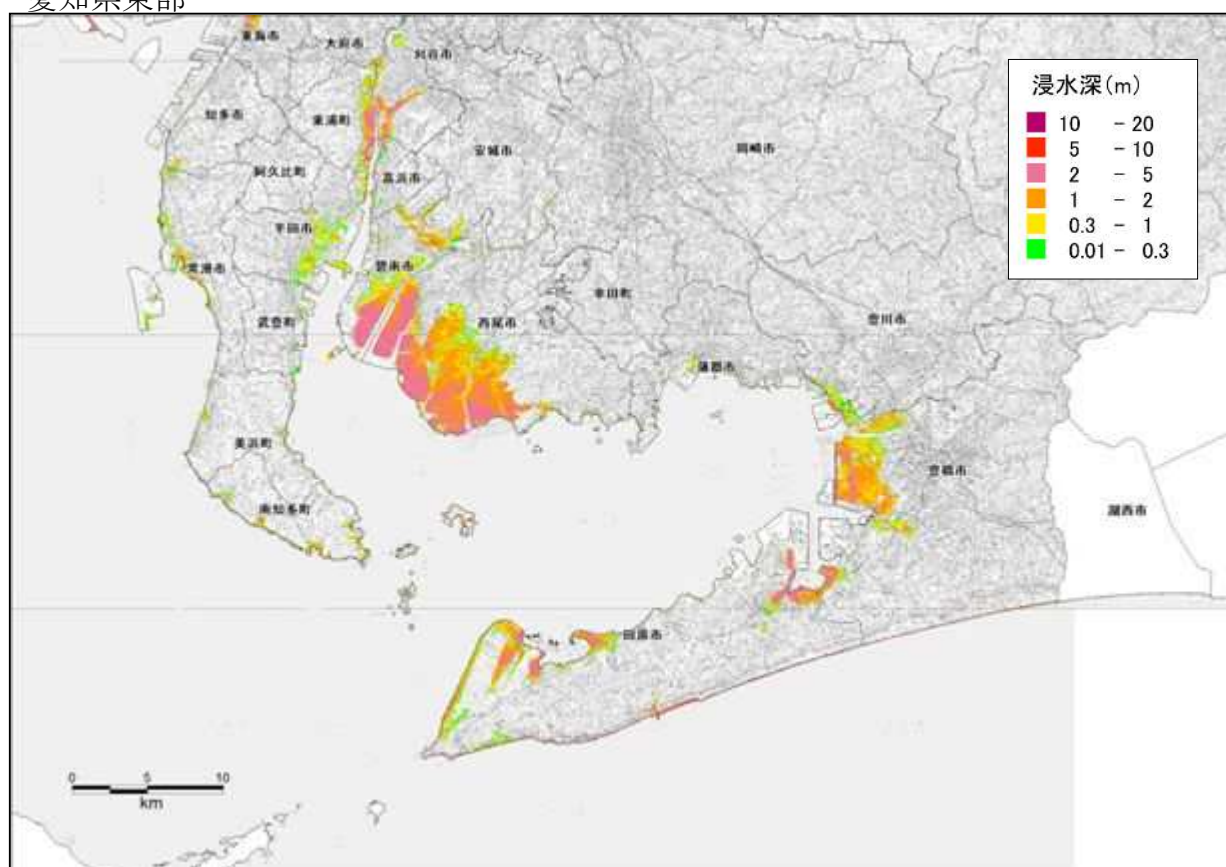


山腹崩壊危険地の危険度（過去地震最大モデル）

愛知県西部

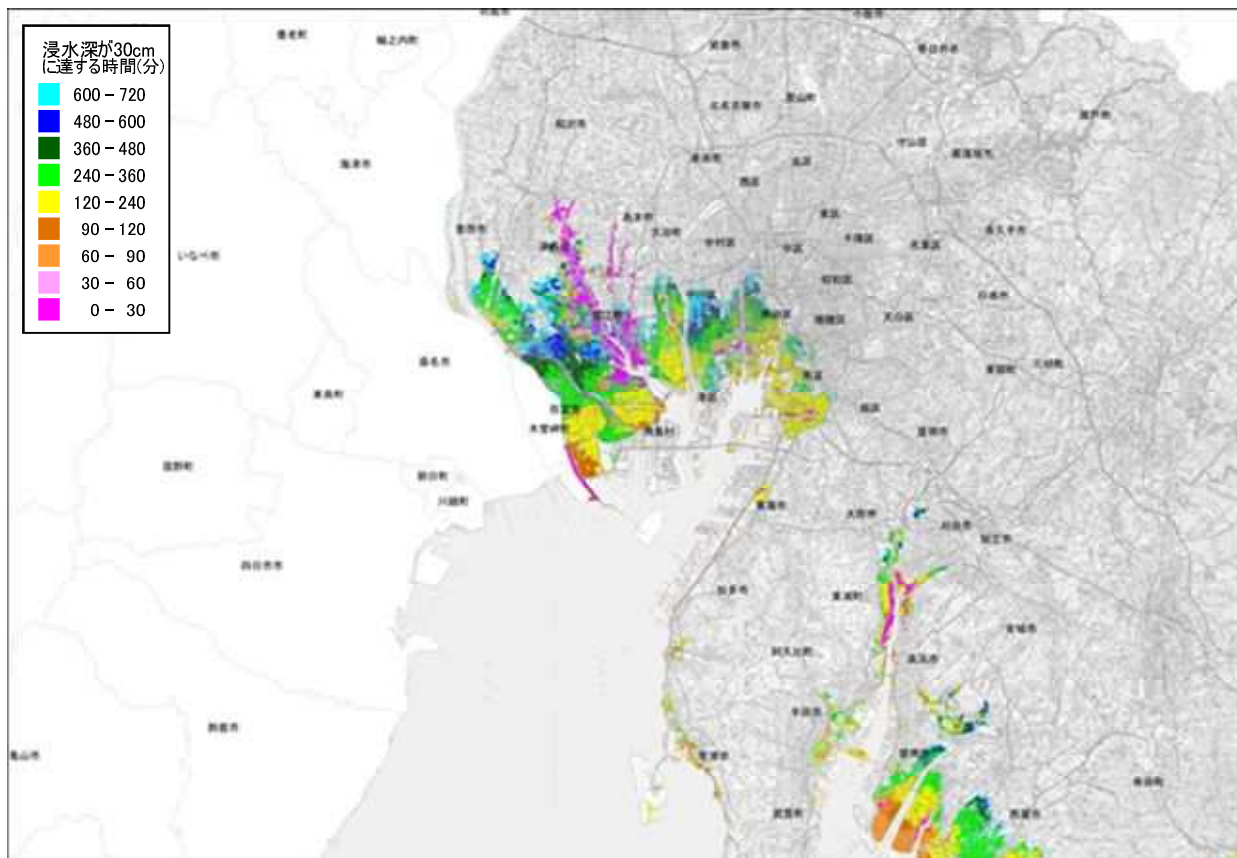


愛知県東部

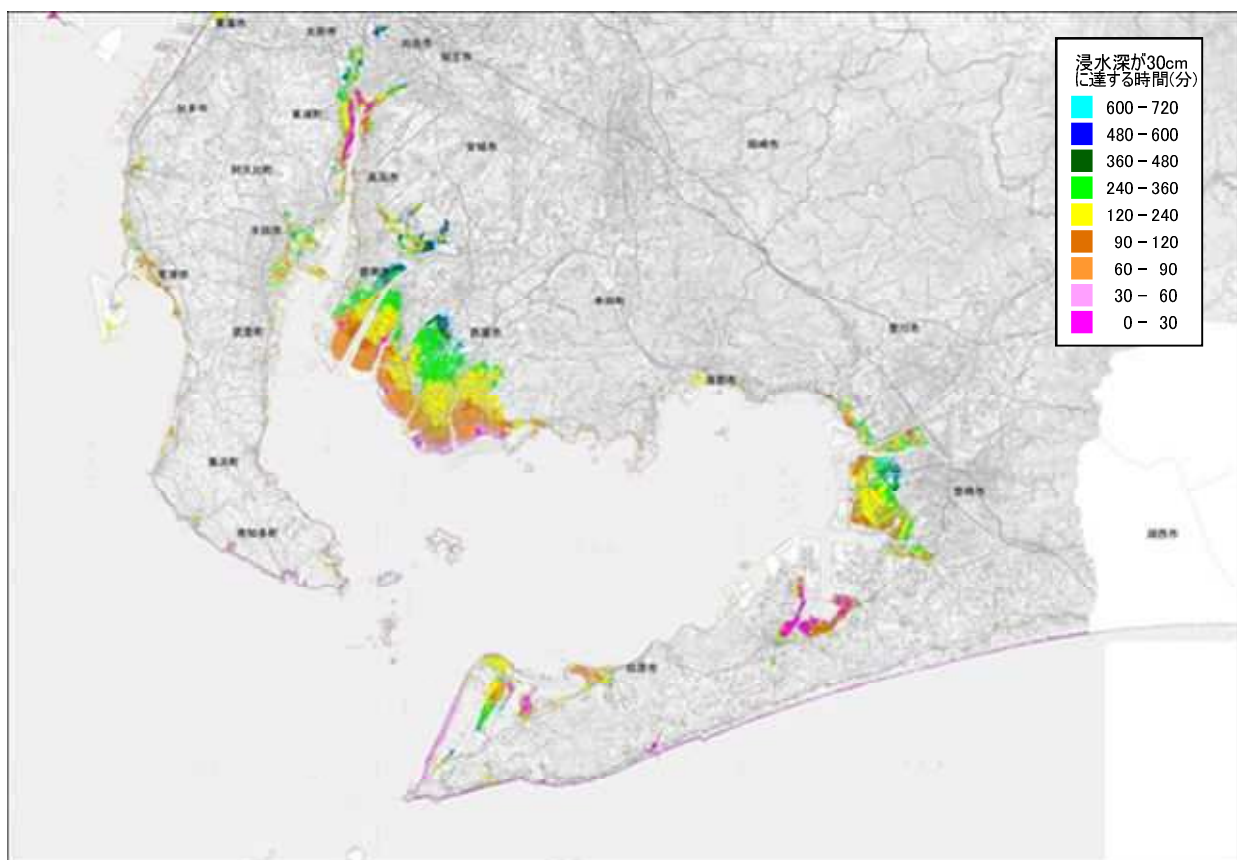


浸水想定域（過去地震最大モデル）

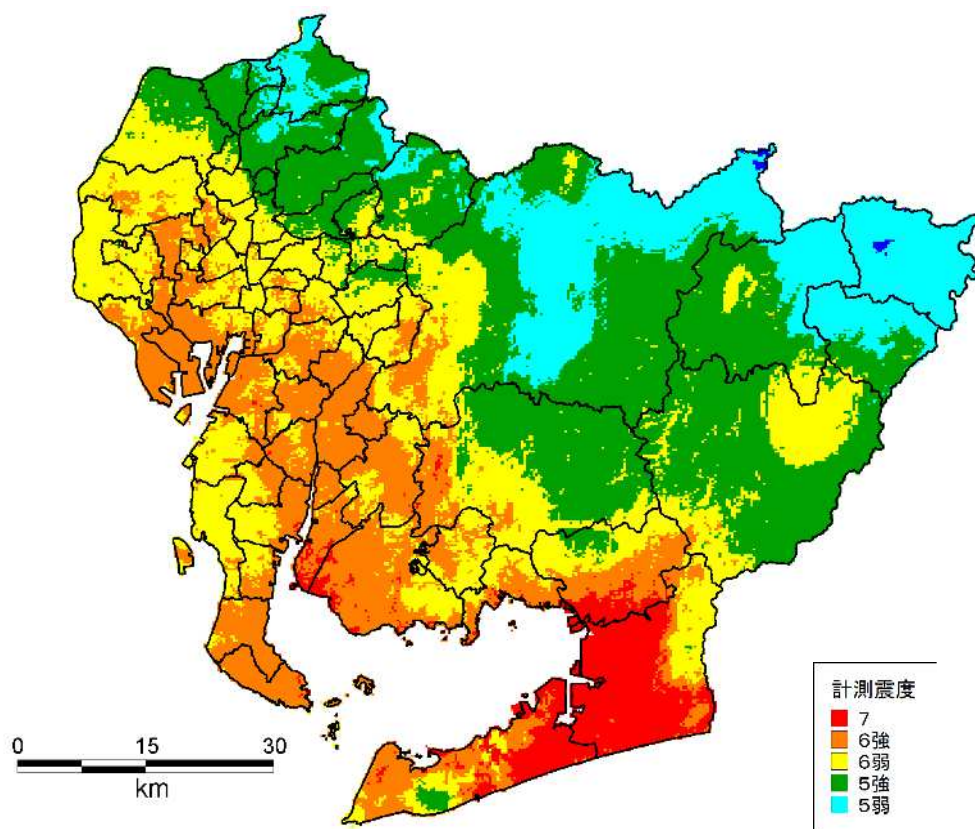
愛知県西部



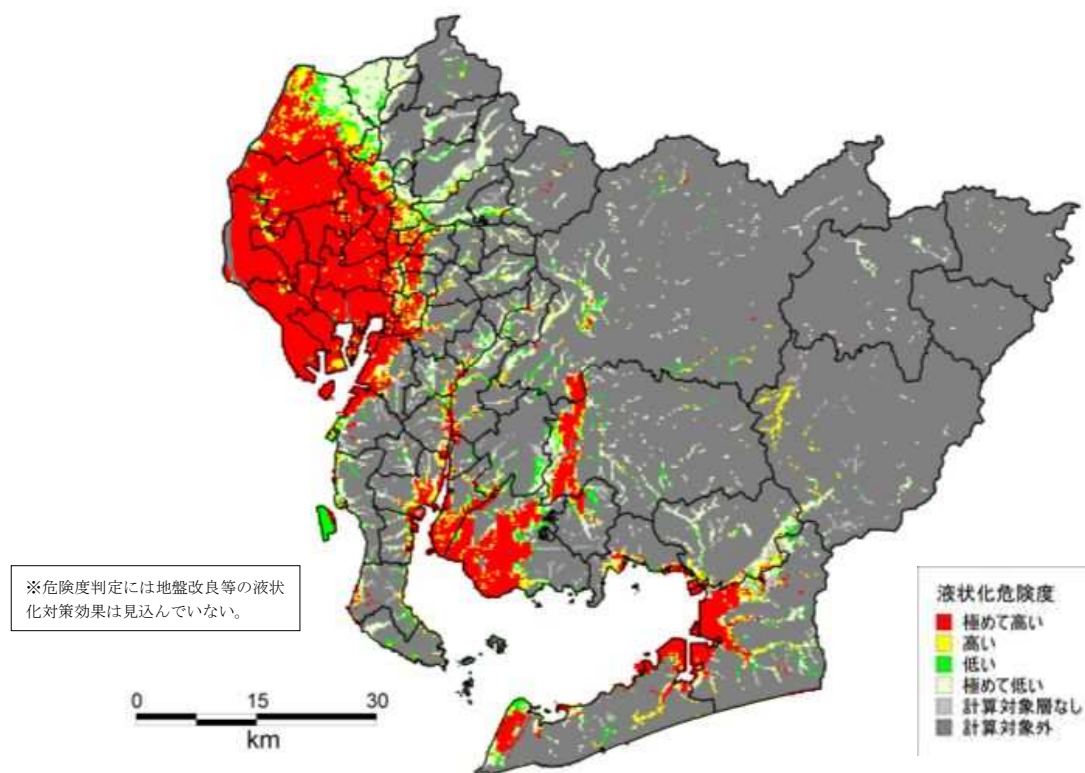
愛知県東部



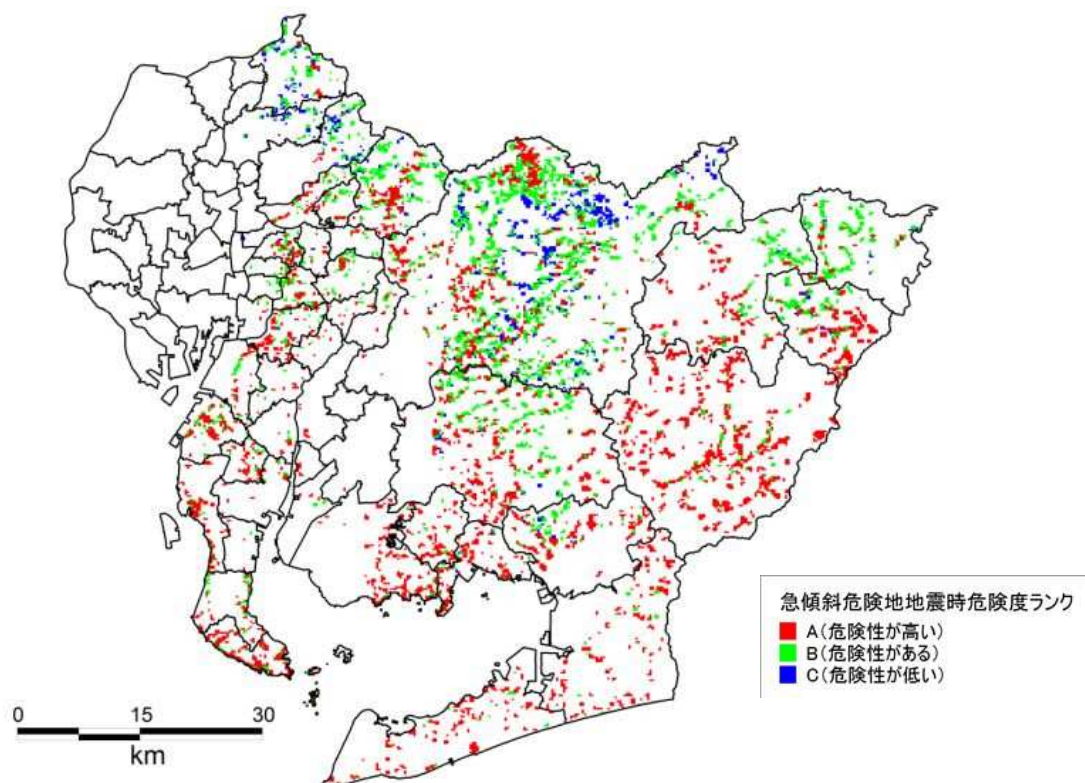
浸水深が 30cm に達する時間（過去地震最大モデル）



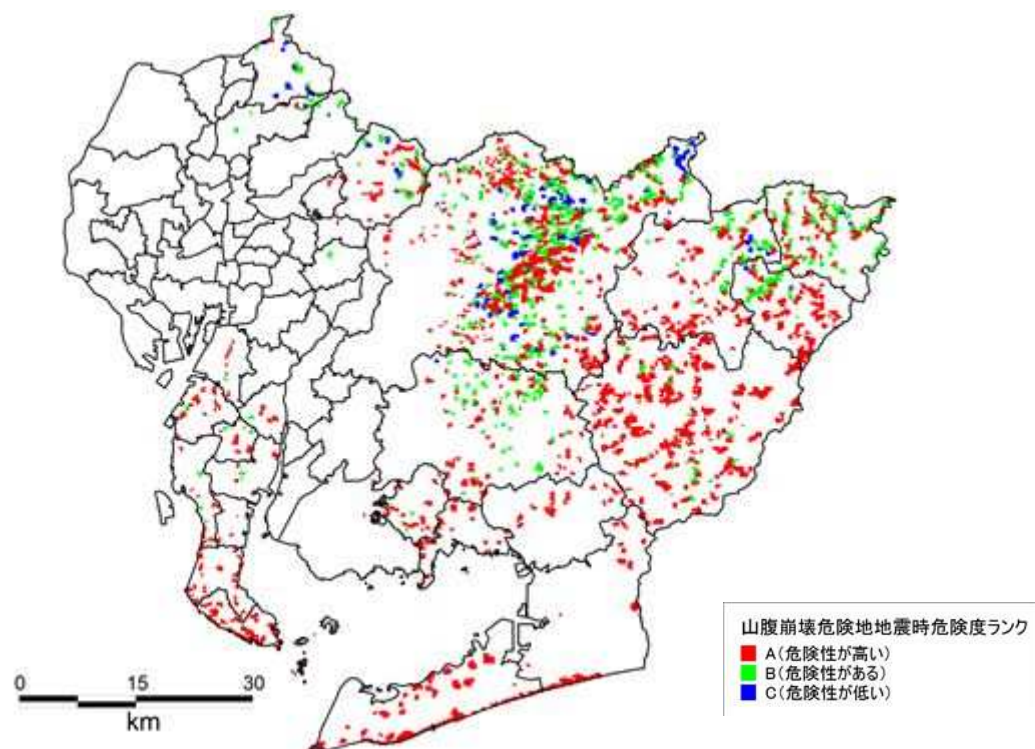
震度分布（理論上最大想定モデル：東側ケース）



液状化危険度分布（理論上最大想定モデル：東側ケース）

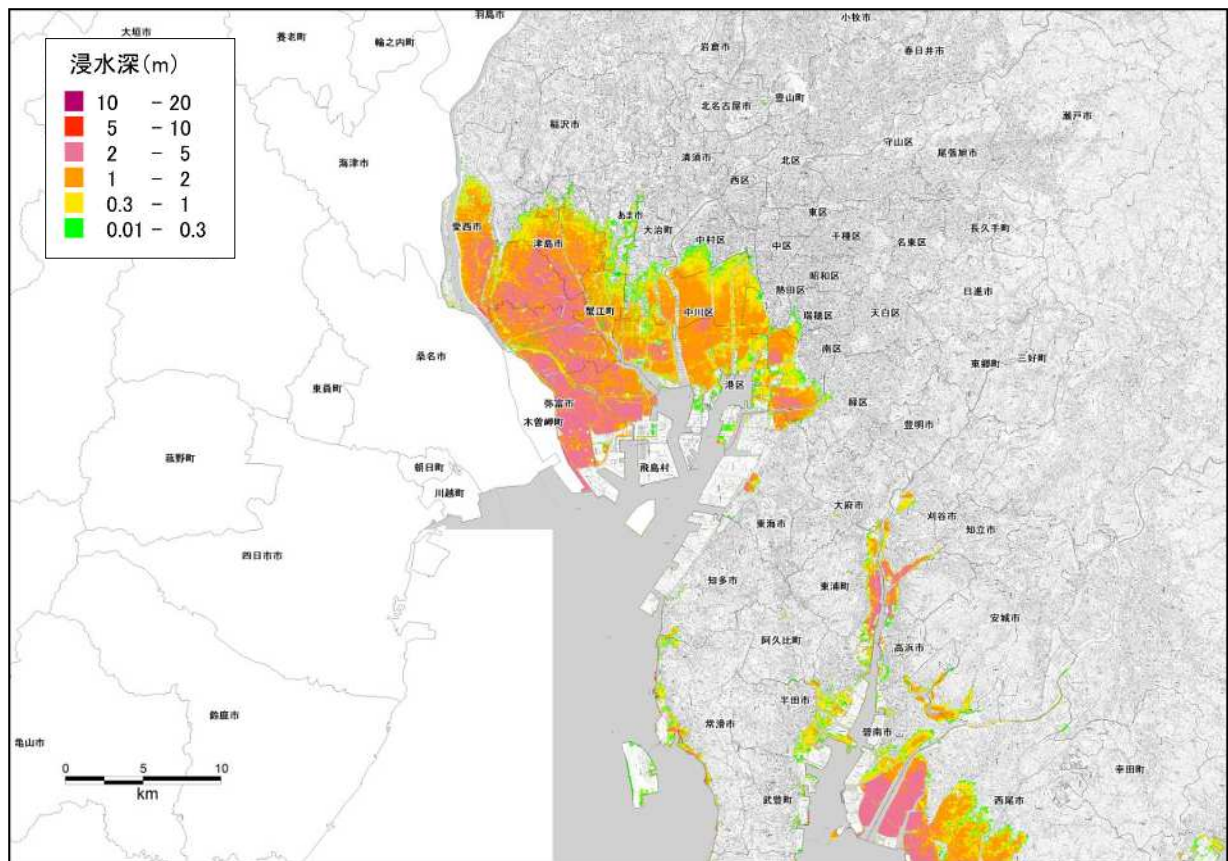


急傾斜地崩壊危険箇所の危険度（理論上最大想定モデル：陸側ケース）

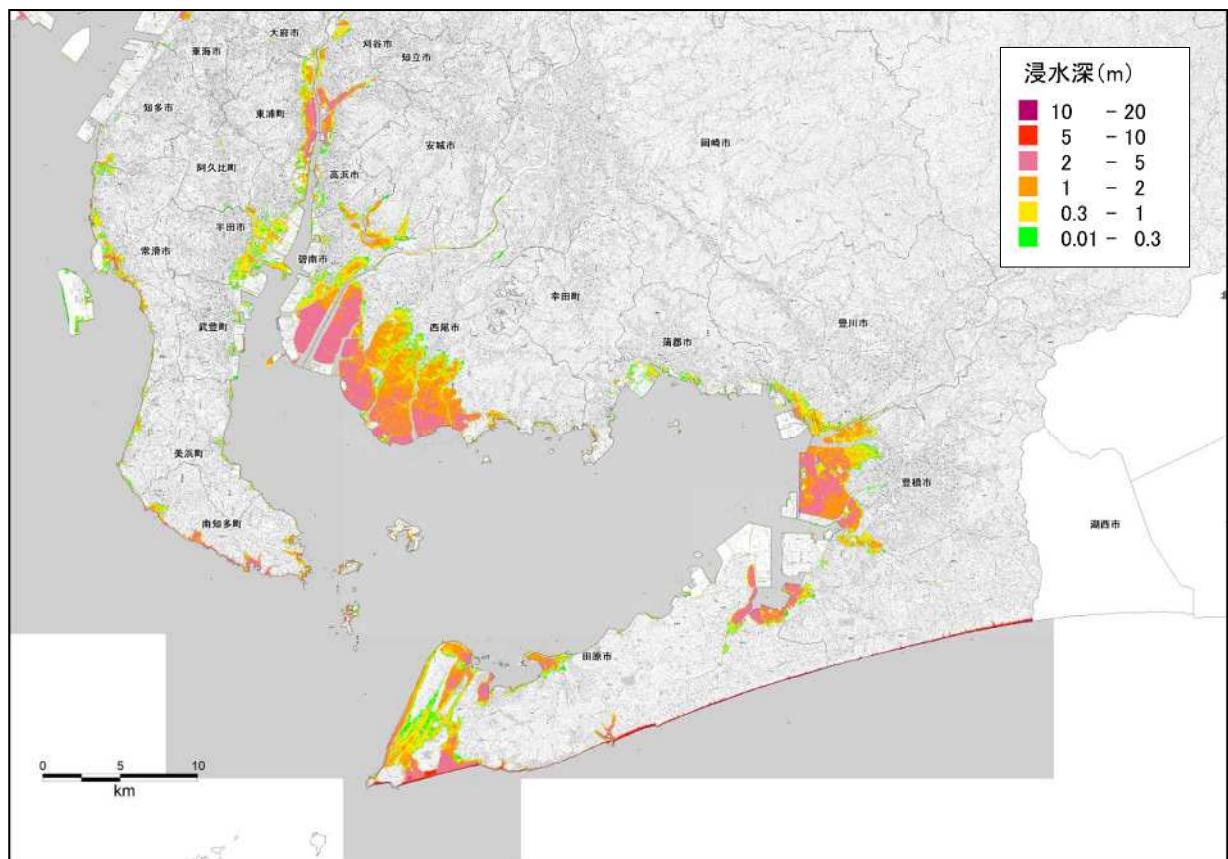


山腹崩壊危険地の危険度（理論上最大想定モデル：陸側ケース）

愛知県西部

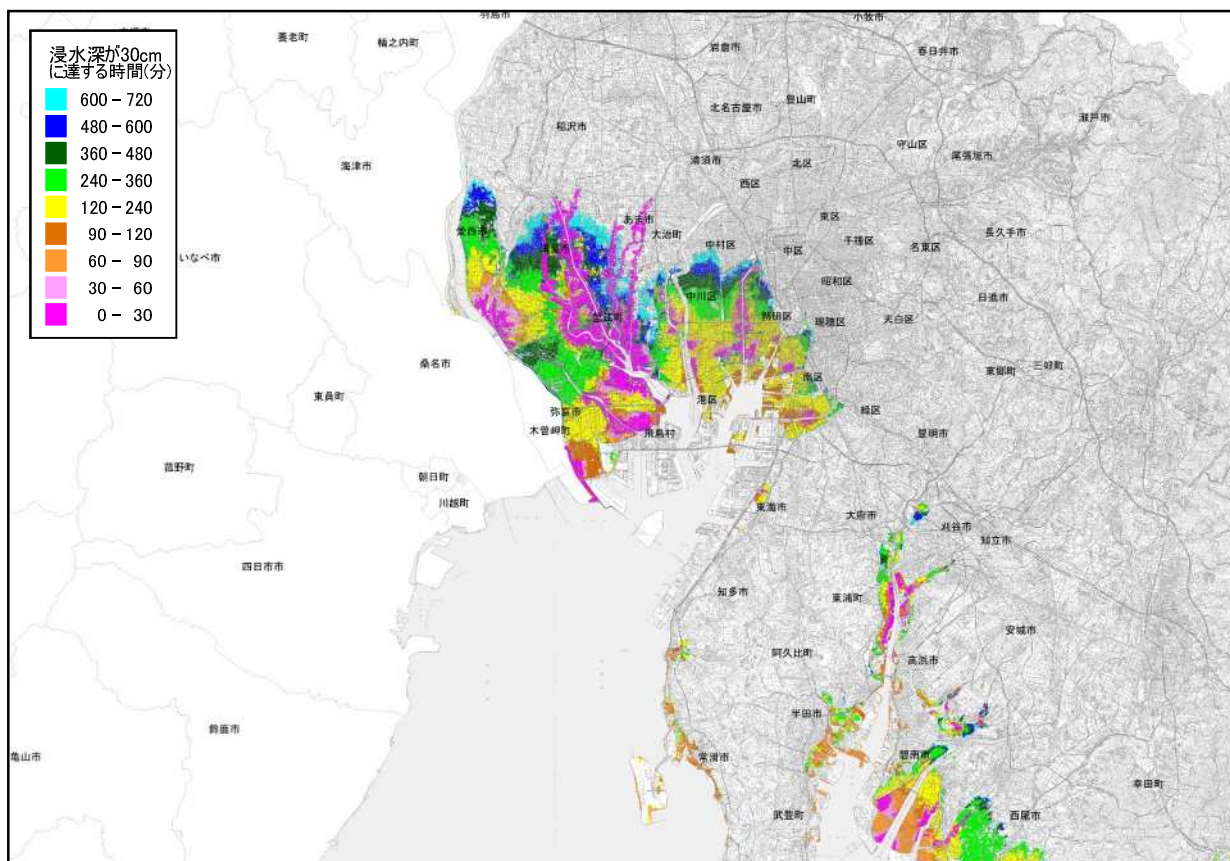


愛知県東部

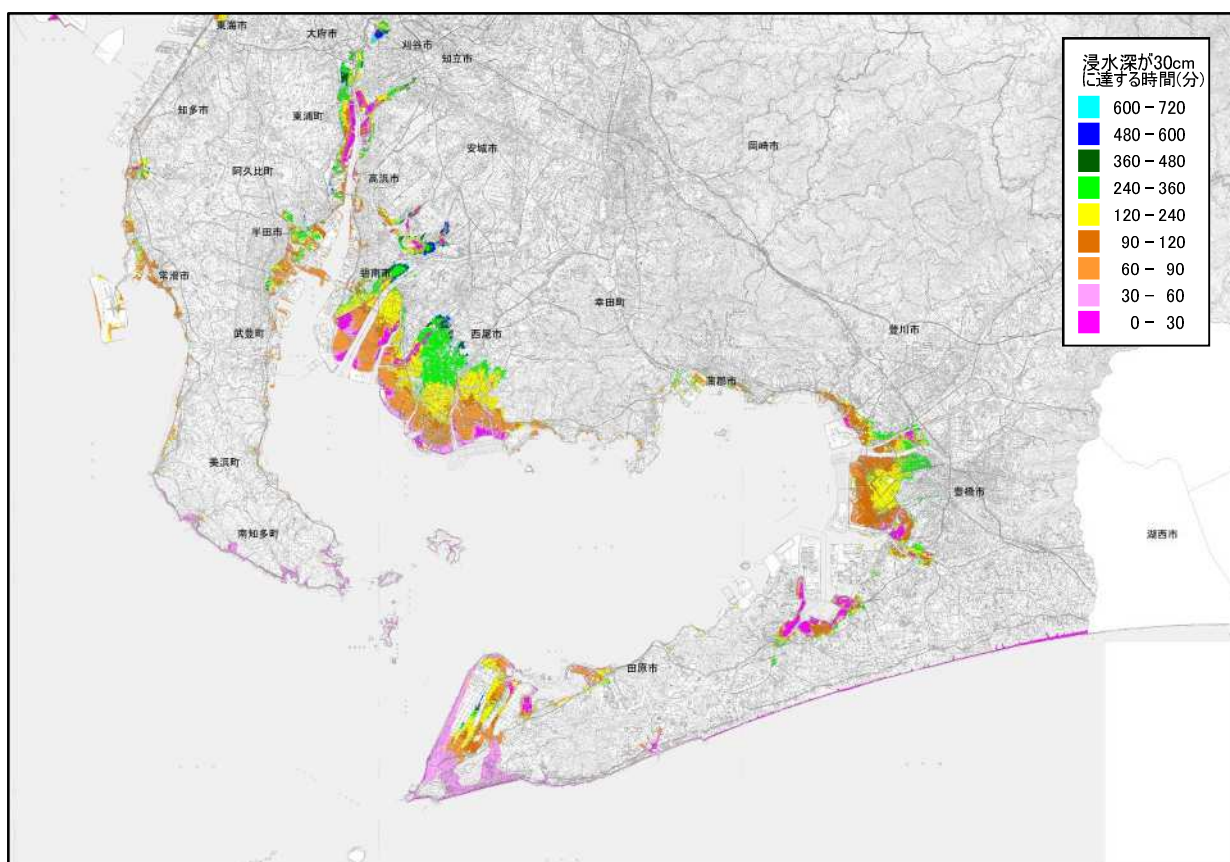


浸水想定域（理論上最大想定モデル：津波ケース①）

愛知県西部

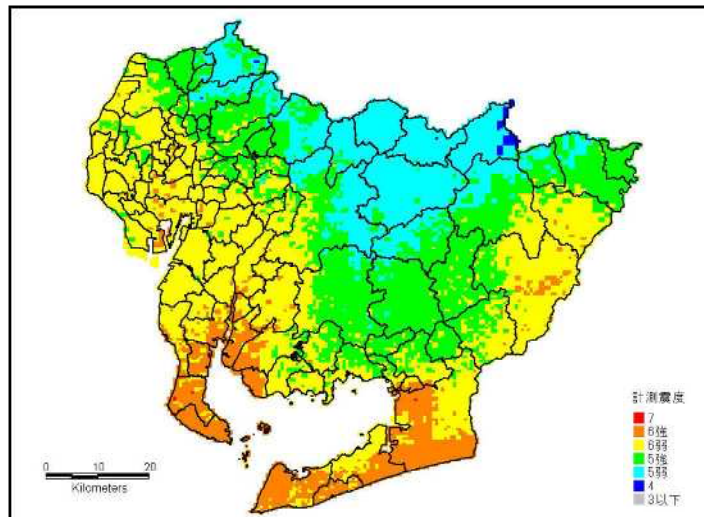


愛知県東部

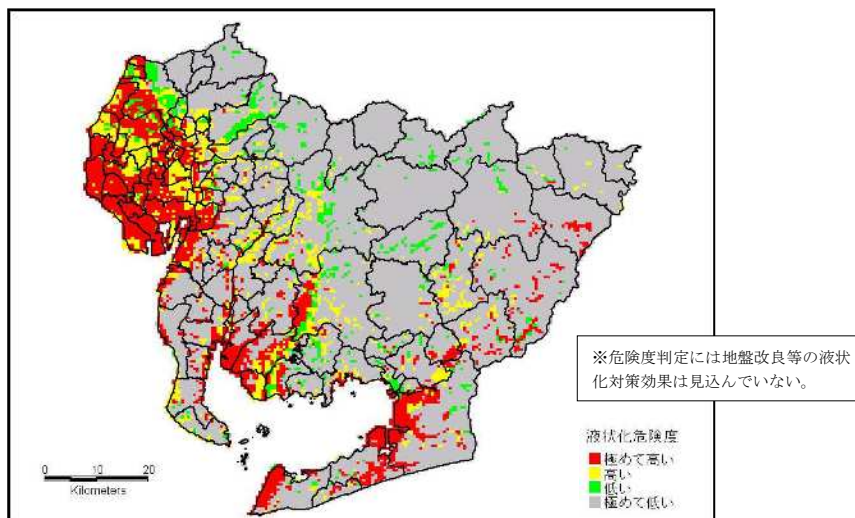


浸水深が 30cm に達する時間（理論上最大想定モデル：津波ケース①）

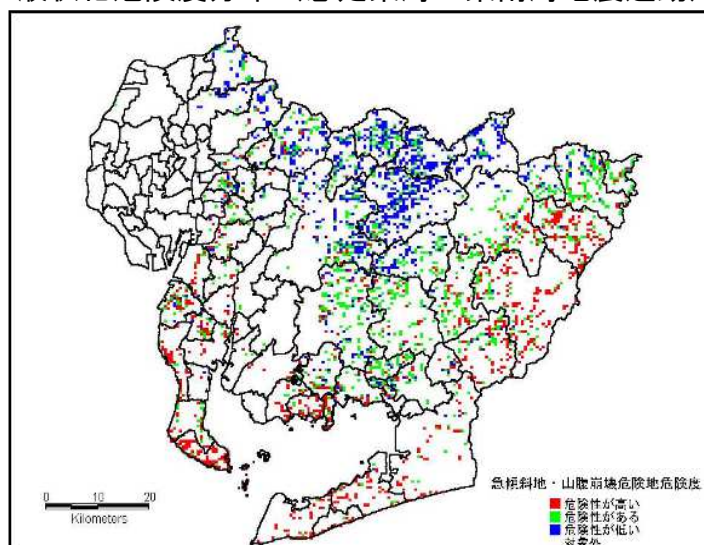
8 平成14年度、平成15年度愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査結果



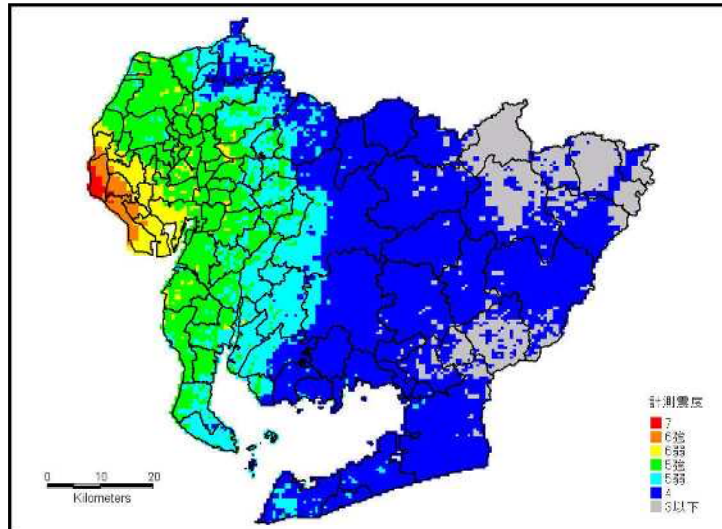
震度分布（想定東海・東南海地震連動）



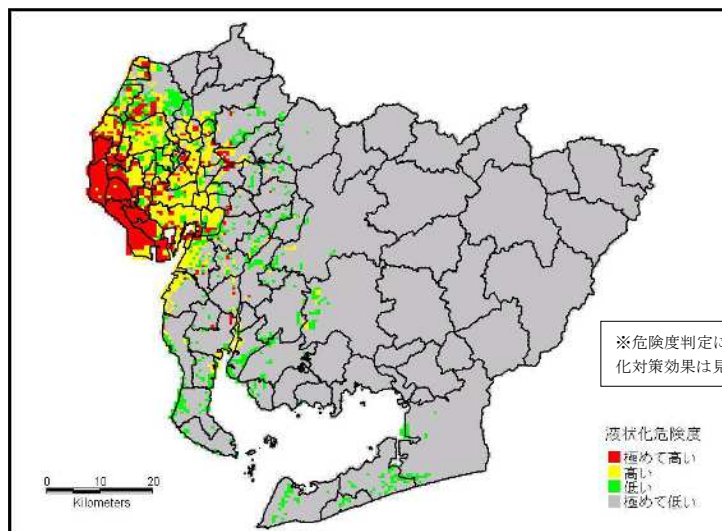
液状化危険度分布（想定東海・東南海地震連動）



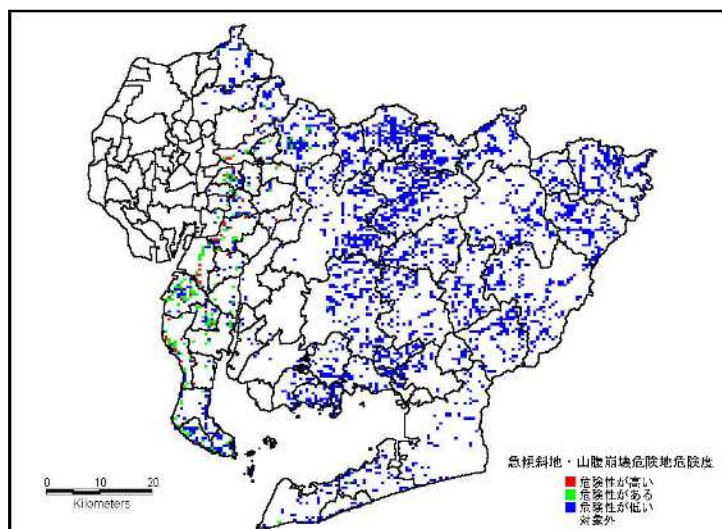
急傾斜危険地・山腹崩壊危険地の危険度（想定東海・東南海地震連動）



震度分布（養老－桑名－四日市断層帯）



液状化危険度分布（養老－桑名－四日市断層帯）

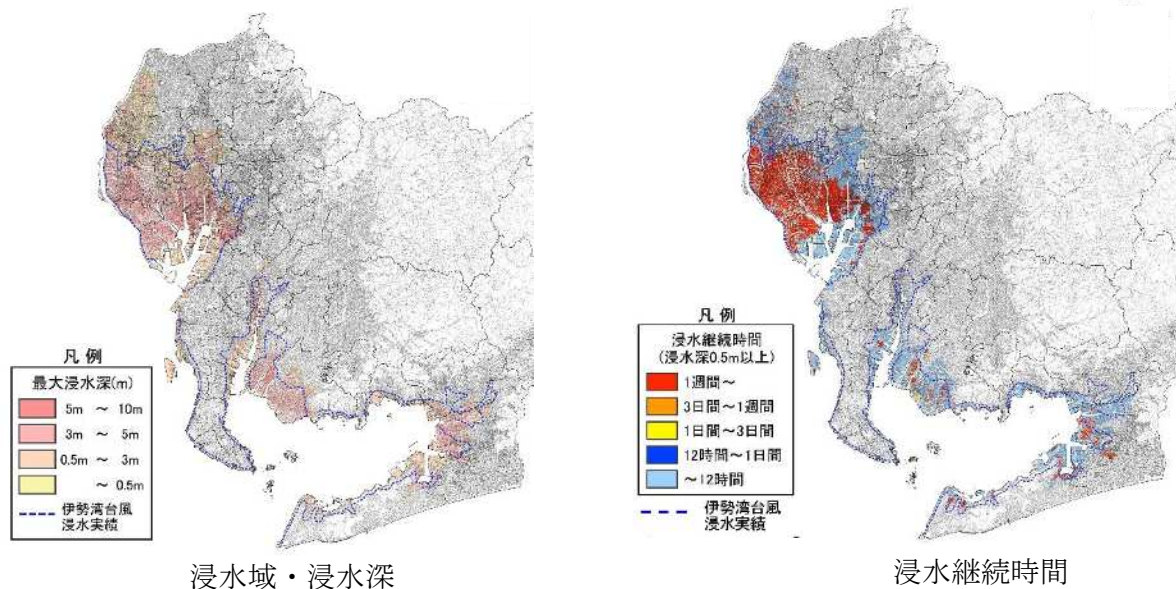


急傾斜危険地・山腹崩壊危険地の危険度（養老－桑名－四日市断層帯）

9 高潮浸水想定区域

●水防法に基づく高潮浸水想定区域

想定し得る最大規模の高潮に対する避難体制等の充実・強化のため、三河湾・伊勢湾沿岸について、高潮浸水想定区域を指定・公表した。（令和 3 年 6 月 11 日指定・公表）



次の 34 市町村について、高潮浸水想定区域を指定している。

名古屋市、豊橋市、一宮市、半田市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、蒲郡市、常滑市、稲沢市、東海市、大府市、知多市、知立市、高浜市、豊明市、田原市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、豊山町、大治町、蟹江町、飛島村、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町

高潮浸水想定区域図は愛知県建設局河川課、愛知県県民相談・情報センター、関係建設事務所で閲覧できるほか、以下でも確認できる。

- ・愛知県 Web サイト「愛知県高潮浸水想定区域を指定・公表します」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/takashioshinsuisotei.html>

- ・愛知県統合型地理情報システム マップあいち

<https://maps.pref.aichi.jp/>

10 市区町村別推計人口と世帯数

県民文化局県民生活部統計課

2025年8月1日現在

単位：人、世帯

年 月 及 び 市 区 町 村 地域ブロック	人 口			世 帯 数	前 1 か 月 (年) 間 の 増 減 数			
	総 数	男	女		人 口			世 帯 数
					総 増 減	自然増減	社会増減	
2014(平成26)年	7,462,931	3,729,207	3,733,724	3,025,839	13,288	3,953	9,335	32,713
2015(27)年	* 7,483,128	* 3,740,844	* 3,742,284	* 3,063,833	20,197	3,185	17,012	37,994
2016(28)年	7,507,251	3,753,707	3,753,544	3,102,794	24,123	1,752	22,371	38,961
2017(29)年	7,526,318	3,761,085	3,765,233	3,139,562	19,067	△ 2,368	21,435	36,768
2018(30)年	7,539,076	3,765,051	3,774,025	3,175,235	12,758	△ 5,874	18,632	35,673
2019(令和元)年	7,554,242	3,772,193	3,782,049	3,215,620	15,166	△ 10,025	25,191	40,385
2020(2)年	* 7,542,415	* 3,761,502	* 3,780,913	* 3,238,301	△ 11,827	△ 11,958	131	22,681
2021(3)年	7,516,008	3,745,355	3,770,653	3,260,383	△ 26,407	△ 17,592	△ 8,815	22,082
2022(4)年	7,497,521	3,734,414	3,763,107	3,293,208	△ 18,487	△ 26,149	7,662	32,825
2023(5)年	7,480,897	3,725,279	3,755,618	3,327,701	△ 16,624	△ 30,073	13,449	34,493
2024(6)年	7,465,250	3,717,349	3,747,901	3,368,627	△ 15,647	△ 34,633	18,986	40,926
2024(令和6)年8月	7,467,704	3,718,572	3,749,132	3,364,449	426	△ 2,211	2,637	2,743
9月	7,465,512	3,717,576	3,747,936	3,365,750	△ 2,192	△ 2,635	443	1,301
10月	7,465,250	3,717,349	3,747,901	3,368,627	△ 262	△ 2,646	2,384	2,877
11月	7,465,813	3,717,553	3,748,260	3,371,640	563	△ 2,189	2,752	3,013
12月	7,464,410	3,716,895	3,747,515	3,372,989	△ 1,403	△ 2,820	1,417	1,349
2025(令和7)年1月	7,461,111	3,714,755	3,746,356	3,372,687	△ 3,299	△ 3,485	186	△ 302
2月	7,456,470	3,712,408	3,744,062	3,372,592	△ 4,641	△ 6,314	1,673	△ 95
3月	7,453,559	3,711,199	3,742,360	3,374,316	△ 2,911	△ 4,081	1,170	1,724
4月	7,448,620	3,708,989	3,739,631	3,387,833	△ 4,939	△ 4,064	△ 875	13,517
5月	7,453,421	3,711,849	3,741,572	3,397,964	4,801	△ 3,069	7,870	10,131
6月	7,453,257	3,712,269	3,740,988	3,401,099	△ 164	△ 2,598	2,434	3,135
7月	7,453,054	3,711,890	3,741,164	3,404,033	△ 203	△ 2,307	2,104	2,934
2025(令和7)年8月 県計	7,453,908	3,712,621	3,741,287	3,407,082	854	△ 1,945	2,799	3,049
名古屋ブロック	2,337,241	1,146,968	1,190,273	1,192,281	794	△ 691	1,485	1,181
尾張北東部ブロック	1,194,301	589,800	604,501	523,843	45	△ 286	331	385
尾張中西部・海部ブロック	988,207	485,226	502,981	423,835	117	△ 315	432	492
知多ブロック	615,245	309,400	305,845	268,449	△ 148	△ 157	9	101
西三河ブロック	1,593,829	818,831	774,998	690,132	79	△ 204	283	510
東三河ブロック	725,085	362,396	362,689	308,542	△ 33	△ 292	259	380
名古屋市	2,337,241	1,146,968	1,190,273	1,192,281	794	△ 691	1,485	1,181
千種区	165,626	80,314	85,312	91,079	168	△ 43	211	178
東区	89,264	42,851	46,413	50,443	129	12	117	55
北区	160,915	78,280	82,635	83,191	△ 56	△ 81	25	23
西区	152,477	75,094	77,383	79,687	125	△ 38	163	171
中村区	143,643	72,675	70,968	82,443	164	△ 44	208	173
中区	106,210	52,763	53,447	76,731	283	12	271	191
昭和区	108,839	53,404	55,435	57,389	△ 24	△ 21	△ 3	26
瑞穂区	108,492	51,857	56,635	53,655	105	△ 37	142	42
熱田区	67,457	33,699	33,758	36,032	△ 31	△ 28	△ 3	△ 17
中川区	216,844	107,061	109,783	106,302	21	△ 94	115	89
港区	139,323	69,964	69,359	66,359	△ 182	△ 99	△ 83	9
南区	130,265	66,182	64,083	64,196	98	△ 79	177	139
守山区	175,949	85,259	90,690	78,617	8	△ 46	54	40
緑区	247,907	121,112	126,795	106,659	△ 2	△ 49	47	56
名東区	161,716	77,083	84,633	78,813	△ 57	△ 21	△ 36	△ 21
天白区	162,314	79,370	82,944	80,685	45	△ 35	80	27
豊橋市	360,788	180,263	180,525	156,984	30	△ 92	122	183
岡崎市	379,835	190,908	188,927	164,488	85	△ 53	138	192
一宮市	370,979	180,137	190,842	159,049	△ 60	△ 143	83	120
瀬戸市	124,186	60,832	63,354	53,930	△ 83	△ 57	△ 26	△ 11
半田市	113,887	57,518	56,369	50,481	△ 72	△ 34	△ 38	-
春日井市	302,951	149,069	153,882	136,120	66	△ 83	149	171
豊川市	183,311	91,153	92,158	76,965	96	△ 65	161	173
津島市	58,329	28,433	29,896	25,290	△ 31	△ 45	14	23
碧南市	71,547	36,825	34,722	29,715	42	△ 30	72	52
刈谷市	153,904	80,112	73,792	70,803	48	24	24	68

市 区 町 村	人 口			世 帯 数	前 1 か 月 (年) 間 の 増 減 数			
	総 数	男	女		総 増 減	人口 自然増減	社会増減	世 帯 数
豊 田 市	413,940	216,703	197,237	185,116	△ 133	△ 91	△ 42	39
安 城 市	185,512	94,681	90,831	79,078	18	△ 11	29	49
西 尾 市	166,686	84,275	82,411	65,931	△ 11	△ 54	43	51
蒲 郡 市	76,795	37,966	38,829	31,972	△ 45	△ 55	10	8
犬 山 市	70,666	34,984	35,682	30,317	37	△ 39	76	61
常 滑 市	58,155	28,352	29,803	26,196	△ 43	△ 8	△ 35	△ 16
江 南 市	95,723	46,670	49,053	40,454	△ 27	△ 31	4	△ 2
小 牧 市	144,910	73,158	71,752	65,200	111	△ 15	126	174
稲 沢 市	130,953	64,472	66,481	54,120	75	△ 18	93	79
新 城 市	40,754	20,297	20,457	16,710	△ 25	△ 32	7	35
東 海 市	112,406	58,069	54,337	50,654	39	△ 3	42	14
大 府 市	93,308	47,155	46,153	39,903	△ 13	1	△ 14	6
知 多 市	81,744	40,891	40,853	35,326	19	△ 40	59	46
知 立 市	72,765	38,361	34,404	33,584	33	8	25	5
尾 張 旭 市	82,922	40,306	42,616	35,696	1	△ 24	25	9
高 浜 市	45,868	23,782	22,086	19,323	60	△ 10	70	62
岩 倉 市	47,882	23,825	24,057	22,776	31	△ 18	49	23
豊 明 市	68,052	34,393	33,659	30,436	△ 27	△ 22	△ 5	19
日 進 市	93,488	46,121	47,367	39,030	△ 97	9	△ 106	△ 105
田 原 市	56,296	29,176	27,120	22,691	△ 69	△ 29	△ 40	△ 13
愛 西 市	58,143	28,256	29,887	22,672	△ 42	△ 34	△ 8	△ 5
清 須 市	66,840	33,450	33,390	30,406	61	6	55	36
北 名 古 屋 市	86,074	42,503	43,571	37,795	38	△ 12	50	66
弥 富 市	42,089	21,050	21,039	18,072	102	△ 2	104	99
み よ し 市	61,925	31,996	29,929	25,672	△ 33	11	△ 44	1
あ ま 市	85,027	41,990	43,037	36,101	△ 60	△ 33	△ 27	8
長 久 手 市	61,623	29,776	31,847	27,999	8	12	△ 4	△ 2
愛 知 郡	43,791	21,877	21,914	17,843	14	△ 4	18	17
東 郷 町	43,791	21,877	21,914	17,843	14	△ 4	18	17
西 春 日 井 郡	15,738	8,034	7,704	7,205	△ 9	△ 11	2	20
豊 山 町	15,738	8,034	7,704	7,205	△ 9	△ 11	2	20
丹 羽 郡	58,107	28,789	29,318	24,042	11	△ 14	25	31
大 口 町	23,990	12,009	11,981	9,597	△ 1	7	△ 8	2
扶 桑 町	34,117	16,780	17,337	14,445	12	△ 21	33	29
海 部 郡	74,035	36,901	37,134	33,125	43	△ 23	66	46
大 治 町	33,037	16,558	16,479	14,595	52	△ 2	54	34
蟹 江 町	36,552	18,112	18,440	16,905	3	△ 19	22	16
飛 島 村	4,446	2,231	2,215	1,625	△ 12	△ 2	△ 10	△ 4
知 多 郡	155,745	77,415	78,330	65,889	△ 78	△ 73	△ 5	51
阿 久 比 町	27,736	13,594	14,142	10,453	△ 12	△ 8	△ 4	10
東 浦 町	49,007	24,292	24,715	20,269	△ 32	△ 14	△ 18	8
南 知 多 町	14,750	7,189	7,561	6,512	△ 30	△ 18	△ 12	△ 11
美 浜 町	21,129	10,489	10,640	9,782	34	△ 18	52	60
武 豊 町	43,123	21,851	21,272	18,873	△ 38	△ 15	△ 23	△ 16
額 田 郡	41,847	21,188	20,659	16,422	△ 30	2	△ 32	△ 9
幸 田 町	41,847	21,188	20,659	16,422	△ 30	2	△ 32	△ 9
北 設 楽 郡	7,141	3,541	3,600	3,220	△ 20	△ 19	△ 1	△ 6
設 楽 町	3,797	1,906	1,891	1,691	△ 10	△ 10	-	△ 1
東 栄 町	2,489	1,214	1,275	1,140	△ 6	△ 5	△ 1	△ 2
豊 根 村	855	421	434	389	△ 4	△ 4	-	△ 3

(注 1) * が付与された数値は国勢調査結果です。

(注 2) 年の時系列は各年10月 1 日現在、月の時系列は各月 1 日現在の推計値です。

(注 3) 2014 (平成26) 年の人口及び世帯数は平成27年国勢調査結果と、2016 (平成28) 年から2019 (令和元) 年までの人口及び世帯数は令和 2 年国勢調査結果との連続性を持たせるため改定した推計値です。

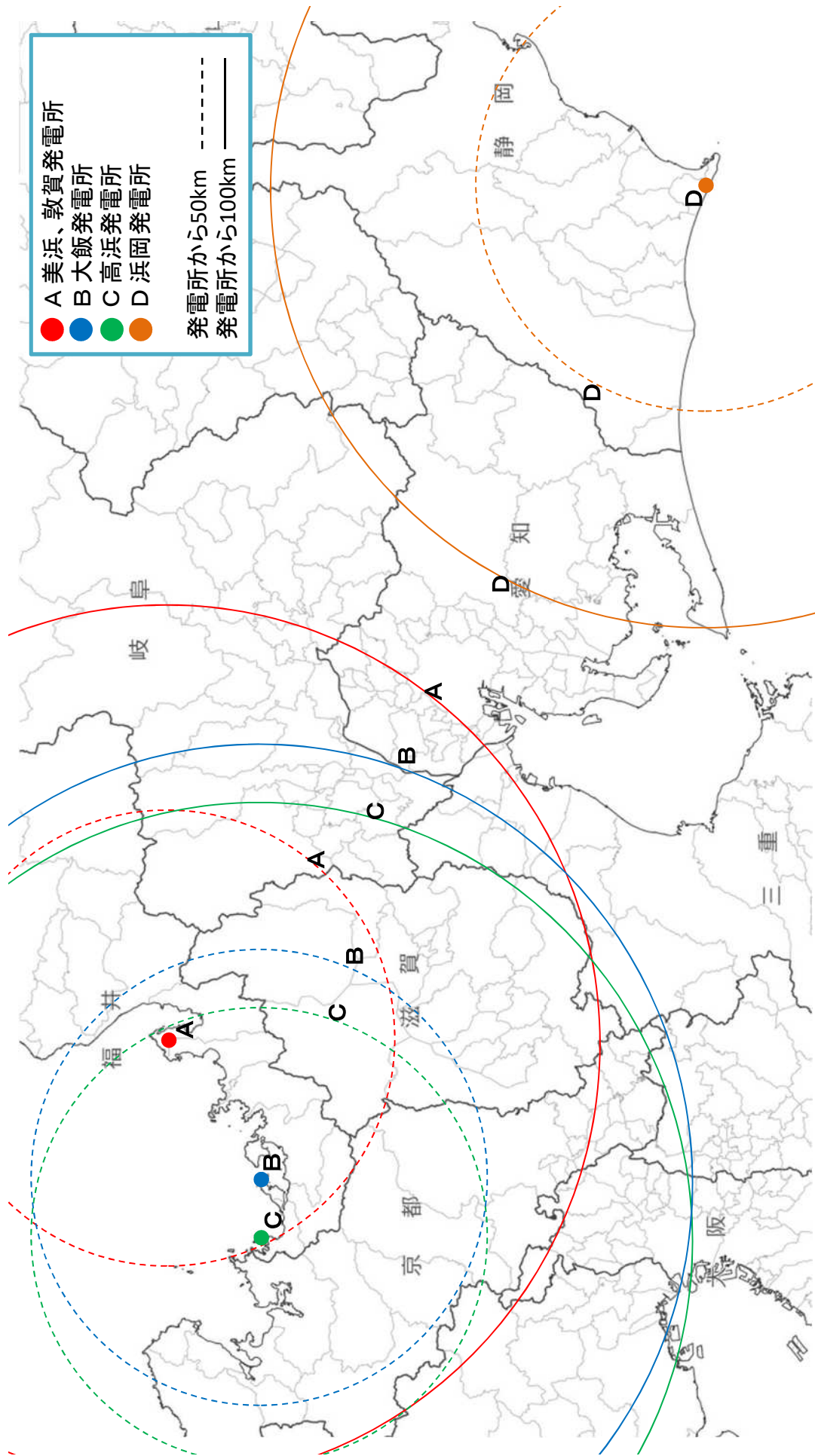
(注 4) 2020(令和 2) 年11月以降は令和 2 年国勢調査結果を基礎とし、住民基本台帳による月間異動数を加減して算出した推計値です。

(注 5) 世帯数については、2024年11月から算出方法の一部を変更しています。

(注 6) 地域ブロックは、2020(令和 2) 年 3 月策定の第 2 期「愛知県人口ビジョン」により区分しています。

(注 7) 表中の「△」はマイナスを、また、「－」は皆無又は該当数値のないものを表しています。

11 県外の原子力発電所の位置関係



国土地理院中部地方測量部作成